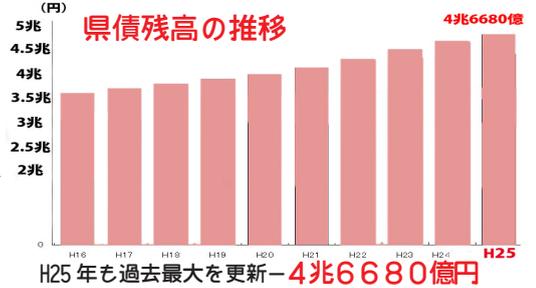


一般会計：1兆9581億円 → 収入  
特別会計：1兆872億円  
企業会計：1924億円

県税 6381億円  
地方交付税+国庫支出金=4671億円  
県債(通常1200+臨財債1739億円)  
その他(使用料・繰入金・諸収入)

\* 県は収支不足額を735億円とするが、これは約3000億円の借金(県債)を収入とした数字



→ 相変わらず**危機的な財政状況**です。行財政改革というと支出削減の話(報酬減など)が先行しがちですが、収入アップにも目を向け政策を提案して参ります。(例)農商:ブランド戦略と販路確保 / 産業:先端産業の集積など  
\* 詳細は報告会および次号にて

NEW

予算チャレンジ枠

既存の施策にとられない先進的な事業に対し5億円の「チャレンジ枠」を新設 [厳しい財政状況にあっても成長分野を的確に捉えて挑戦するという趣旨]

- 本庁:** エネルギー開発、耐震対策、地域連携、リハビリのロボット補助・健康促進、観光、ビジネス国際支援、獣害対策、通学路対策、空き家対策、国際人材育成、科学捜査支援 ...
- 県民局:** ミュージアムロード整備、自然保全、エネルギー開発、広報・宣伝、農と観光促進 ...

→ 残念ながら一般会計の補完的な内容が目立ちます。職員からの提案段階ではユニークな企画もあったようですが予算審査で落とされてしまったようです。現場職員の発想を活かした柔軟な事業が実施できるように、この新しい制度を磨き上げていきたいと思います。

予算節約インセンティブ制度

\* 兵庫県で平成20年度から導入している制度

背景:『単年度予算方式』のため“年度内に予算を使い切らなければ、余った額はもともと必要がなかったとして翌年度減額される”(→これを回避するため年度末に消耗品を大量購入するなど「駆け込み執行」を行う)ような制度・慣行への批判。

制度内容: 予算査定で前年度予算の節約執行が認められれば、その節約分に相当する額は翌年度予算に加算され(事業の新規・拡充等に用いることができ)る。

期待する効果: 職員の意識を「使い切らなければ損」から「節約すれば得」という発想へ転換。

→ 更にこれを進めるために、査定の適正確保や人事評価と連動させていく(予算節約のアイディアを出し実行する人をきちんと評価する)ことを提案して参ります。

県政報告会 ~県議会がちょっと身近になる45分~

日時: 5月25日(土曜日) 午前10時~

場所: 郷の音ホール(総合文化センター) 会議室

内容: [前半45分] 県(議会)の仕組みや役割についてご紹介致します。

[後半1時間強] 私がこの2年間でやってきたことと、残りの2年間で取り組む(目指す)ことをお話致します。

\* なるべく分かりやすい話を心がけますのでどなた様もお気軽にお越し下さい

\* 予約不要 無料 途中参加・退出 OK!

